横須賀市立ろう学校だより

かしわ

No. 15 平成31年1月7日 児童の作品

新年を迎えるにあたり

校長　北村 耕一

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。皆様は「平成」最後の年末年始をいかが過ごされましたか。私は例年どおり年末は大掃除に苦戦し、正月はこれまた例年どおり弟たち家族を迎え、妻の実家に挨拶に行くというものでした。

私の心の中では「例年どおり過ごせる」というのは幸せな事なのです。これが家族や親せきの中で体調を崩した者がいれば、「例年どおり」の年末年始を過ごすことができなくなると思います。学校でいつも話していますが、「健康でいられる」ということは大切なことだと思います。

大掃除を行いながら気になった新聞記事を切り抜いて貼っていたｽｸﾗｯﾌﾟ帳を読んでいました。その中に11月末の記事ですが９月６日の北海道の地震に関する記事がありました。

今年度の高等部の修学旅行はあの大地震の約一か月後でした。それで気になって切り抜いたのだと思います。記事の内容は北海道全域で発生した「ﾌﾞﾗｯｸｱｳﾄ」に関するもので、その中の新千歳空港と旭山動物園の地震直後の様子について書かれたものでした。

修学旅行初日に訪問した旭山動物園のある旭川の震度は4だったそうです。動物園の施設には被害がなかったそうで、坂東園長は停電の長期化に備えたそうです。断水、水槽の水の濾過、餌の肉や魚の保存等対応は素人の私には想像つかない程、大変だったと思います。

地震当日は閉園したそうですが、翌朝６時頃に電気が回復したので定時に開園したそうです。これは坂東園長はじめ職員の皆さんが「旅先で（地震に遭い）つらい思いをしている人たちに何かひとつでも、いい思い出を持ち帰ってもらいたい」という思いが開園準備のｴﾈﾙｷﾞｰになったようです。旭川のJRは不通で路線ﾊﾞｽも止まったままの状況の中、様々な交通手段で約2000人の観光客が来たそうです。そして観光客は「動物園がやっていて、よかった」と職員に声をかけたそうです。

修学旅行の最終日に利用した新千歳空港は、停電と空港ﾋﾞﾙ全体の被害により、地震当日は空港開港以来初めての全館閉鎖だったそうです。当日の午後５時半頃に送電が再開され、ﾋﾞﾙの補修や修繕の復旧作業を手分けして夜通し行い、翌日の昼前に再開後の一番機が到着したそうです。但し、全面復旧までには２ｶ月近くかかったそうです。

こうした地震の記事を読み、さらに出発前日の台風の影響が残る中、高等部の修学旅行が無事に行えたことは、影で支えてくれていた人たちのおかげだと、改めて「感謝の気持ち」がわきました。

新年を迎えるにあたり「例年とおり過ごせる」「健康でいられる」という私の幸せは、多くの方々の支えがあっての事で、「感謝の気持ち」を大切にしたいと思いました。

新年を迎えて、私の抱負

教頭　秋澤 純哉

新年あけましておめでとうございます。

今年は「亥年」です。「亥」～「猪」といえばよく使われる「猪突猛進」という四字熟語があります。

この意味合いは「目標に向かってただひたすら突き進む」という、良い意味で使われているものであると私は思っていました。

ところがよく調べてみたところ「周囲の人のことや状況を考えずに、一つの目標を目指して猛烈な勢いで突き進む」ことと辞典に記されていました。

自分にとっては良い意味で使っていると思った言葉も、周囲から見れば決して良くはない、逆に不適切な振る舞いと捉えられてしまうこともあります。

この数年を自分自身で振り返ってみた時、仕事でも家庭でも様々な場面で「目先のことに向かってただひたすら突き進んでいた」「新しい事態に直面した時、『よしやるぞ』と自分だけに言い聞かせ、前へ向かっていた」ことも少なくありませんでした。

「猪突猛進」から、今までの自分を顧みることができましたが、つい先日「報恩謝徳」（ほうおんしゃとく）という四字熟語を目にしました。

「受けた恵みや恩に対して報いようと、感謝の気持ちを持ってお返しをする」「恩に報い、徳に感謝する」ことだそうです。果たして今まで自分は出来ていたのかと自問自答しました。

日々の中で当たり前のように接している人々が、いつものように行ってくれることに改めて「報恩謝徳」の思いを忘れずに生きたい。

これまでの自分を支えてくれた家族をはじめ、全ての人々への感謝の気持ちを大切に、平成から新たな元号となる 2019 年を、心も体も健康で過ごしたいと願った次第です。

新年を迎えて、私の抱負

幼稚部　吉川 知彦

あけましておめでとうございます。本年がみなさまにとって実り豊かな年となりますように。

横須賀ろう学校に着任してからもうすぐ 1 年となります。一般校での勤務が長かったため、特別支援学校の様子はわかりませんでしたが、日々子どもたちの笑顔に励まされ、少しずつ勉強を重ねています。手話や指導法だけではなく、聞こえが不自由であることがどういうことか、言葉の獲得がいかに難しいものであるか、そして保護者の気持ちや期待などを知れば知るほど、自分の責任の重さに気付かされます。

幼稚部の子どもたちが、授業で新しい言葉を一生懸命繰り返しながら、時折「むり！」「むずかしい！」と言う場面がありました。覚えたので使ってみたいという気持ちがあるのかもしれませんが、子どもの努力を認めず、大人のペースで言葉の表出を焦って指導したことに気付かされる場面でした。言葉を覚えるのが苦しく大変なことであれば、誰も身に付けようと思いません。相手とつながる便利な道具であることを子どもたち自身が実感し、覚えたい、言ってみたい、知りたいという気持ちになるようにするのが私たちの役目です。子どもたちや保護者の笑顔が少しでも増えるよう、今年もがんばろうと思います。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

「中高お楽しみ会」の様子

中学部　宮前 こずえ

冬の風物詩、恒例の「中高お楽しみ会」。中 2 は朝から「今日はお楽しみ会だー！」と、お昼休みの準備に誰よりも早く駆け付け、真っ先に協力してくれました。

司会の大役を務めた中 3 は、台本に自分の台詞や流れをこまめに書き込んで、マイ台本を作り上げました。とても上手な司会ぶりで、皆を楽しませてくれました。

今年で最後となる高 3 は、学級担任がいないことにすぐに気が付き、何度も「僕が探しに行く！」と優しい気持ちを見せてくれました。（実は高 3 担任がサンタクロース役でした）3 人の温かい気持ちに、心がほんわかとなりました。

サンタさん、トナカイさんが視聴覚室に現れて、生徒たちの気持ちも最高潮。1 年に 1 度の出逢いに感謝して、サンタさんのお話を聞いていました。

お楽しみ会一番の盛り上がり、プレゼント交換に皆の笑顔があふれていました。当たったプレゼントを皆に紹介するときに、誰からのプレゼントか分かると、喜びも倍増。サンタさん、トナカイさんを囲んで最後に記念写真。皆の笑顔がまぶしかったです。

後片付けも、皆で協力し合ってスムーズにできました。生徒たちの成長を感じる、想い出深い行事となりました。